

感染症情報 7月3日～9日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①手足口病	2190例(堺市 142例)
②感染性胃腸炎	1142例(堺市 66例)
③溶連菌感染症	586例(堺市 58例)
④ヘルパンギーナ	308例(堺市 31例)
⑤咽頭結膜熱	145例(堺市 7例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	11例(堺市 2例)
---------	------------

が報告された。

感染症報告数は前週から18.3%増の4,804件であった。報告の第1位がいよいよ手足口病になった。以下、感染性胃腸炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順であった。

1位の手足口病は府下で前週比67%増、堺市では前週比21%増であった。定点当たりの報告数は前週6.5→今回11になった。大阪府全ブロックで警報開始レベル基準値5を超えている。主に検出されているのはコクサッキーA6型ウイルスとある。2位の感染性胃腸炎は府下で前週比16%減、堺市で14%減であった。溶連菌感染症は府下で前週比4%減、堺市で76%増であった。ヘルパンギーナは府下では前週から36%増、堺市では前週9例→今回31例であった。咽頭結膜熱は府下で前週比4%減、堺市で前週9例→今回7例であった。

インフルエンザは府下では前週15例→今回11例であった。堺市では前週0例であったが、今回再び2例が報告された。

麻疹や風疹の報告はなかった。